

児童向け『古事記』等作品目録 近代編

田 中 千 晶

Bibliography of *Kojiki* (Japanese Myth) for Children
 <Modern Era>

Chiaki TANAKA

SUMMARY

Today colloquial style of *Kojiki*, or Anthology of Japanese myths, is being published. It is similar to *Kojiki* adapted for children as well as works related to *Kojiki*. There are more than 120 different versions of *Kojiki* adapted for children in modern times. Not only those children's stories but also are there various other styles like drama, picture books and picture-card shows. We can say that *Kojiki* has been handed down from generation to generation in various styles. In order to promote the study of *Kojiki* adapted for children, in the first place, classifying and arranging various works by items are required. Therefore, in this paper, I made a bibliography of *Kojiki* adapted for children and of those works related to the *Kojiki*, which were published from 1868, the first year of Meiji Era to 1945, the 20th year of Showa Era. I first classified broadly *Kojiki* and others, and then subdivided them by items. I hope that it will help the further study of *Kojiki* and juvenile literature.

はじめに

現在、『古事記』口語訳は数多く出版され、児童を対象とした『古事記』や『古事記』に関連した作品もまた同様である。口語訳としても、児童向けとしても代表的な作品の一つは、鈴木三重吉『古事記物語』（赤い鳥社 大正9年）といえよう。発行以来、増刷・改版を重ねなが

ら現在も出版され続けている作品である。むろん、近代における児童向け『古事記』や『古事記』関連作品は三重吉の著書に限らず、巖谷小波のお伽噺を嚆矢として多数存在し、その数は一二〇点以上にのぼる。それらはお伽噺・童話の類だけでなく、戯曲、絵本、紙芝居といった多様なかたちをとっている。『古事記』は様々な姿で児童に語り継がれてきたといえよう。近代における『古事記』享受という側面からも、児童向け『古事記』の存在は決して小さくはないといえるが、この分野についての先行研究はほとんど進展していないのが現状である。

『古事記』研究の場においては、『古事記』の近現代における享受の研究が、成立論、作品論等といった『古事記』研究の主流からは外れるために取り組まれることがほとんどなく、また、平易な口語体である児童向けの『古事記』等は考察対象として着目されることがないためなのか、研究対象の視野から漏れてきた。

一方、児童文学研究の方面においては、三重吉『古事記物語』に関する論考^①があり、この作品については一定の研究成果をもたらしている。しかしながら、『古事記』原典との比較といった考察等は進められておらず、児童文学研究者の研究領域ゆえの限界も見える。いわば、上代文学研究と児童文学研究の狭間で、『古事記物語』をはじめとした児童向け『古事記』は研究対象として掘り下げることがなされないままだったと考えられるだろう。^②

児童向け『古事記』の研究を推進するためには、手始めに、様々な作品を項目ごとに分類し整理する作業が要請されよう。よって本稿では、児童向け『古事記』の作品目録の作成を行った。今後の『古事記』享受研究と同時に、戦前から戦時下における児童文学研究の一助としたい。

凡 例

本稿は、明治初年から昭和20年まで（近代）に刊行された、児童向け

『古事記』等の作品を収録した目録である。児童向け『古事記』とは、児童向けの配慮（平易な表現、総ルビ、性的表現の緩和等）がある『古事記』や、各著者による緒言等から対象が児童と判断できる『古事記』、叢書名や形式などから児童向けと判断できる『古事記』の類を指す。ここでいう児童とは、大人を媒介として作品を与えられる存在であり、年齢的には、大人が作品を読み聞かせる段階の幼児から、小学生（尋常小学校、国民学校初等科の生徒）という層を中心に、さらに数年以上の旧制中学校程度までとする。児童の年齢を厳密に限定することと同様に、児童文学を定義づけることもまた容易ではなく、児童文学研究者によって必ずしも統一的な見解は現れていないが、児童文学を最大公約数の共通項で定義すれば、児童を読者対象と想定した作品であるといえよう。大人によって与えられ、大人向けとは明らかに違う『古事記』を、児童文学としての『古事記』とし、このような児童向けの『古事記』を収録することとした。また、『古事記』を中心とするが、より多くの関連作品を収録するをも目的としているため、『日本書紀』『風土記』等に依拠したと考えられる作品も挙げた。

よって分類方法は、まず、次の二種に大分類した。

- 『古事記』を典拠とする作品（明確に『古事記』典拠といえる作品）
- 『古事記』以外の『日本書紀』等を典拠とする関連作品（典拠を明確に出来ない作品を含む）

さらにそれぞれを次の一〜四に小分類した。

- 一、童話（物語）―各著者が「口語訳」とするものを含む。さらに以下の二種に分類する。

(一) 『古事記』等から部分的に抜粋したお伽噺、童話、物語。

(二) 『古事記』等に即した通史の形式をとる歴史的物語。但し、神代部

分だけの作品を含む。

- 二、戯曲―主に学校劇（児童劇）用に書かれた脚本。

三、絵本・漫画―絵に比重を置いた書籍。
四、紙芝居

・作品の配列は発表年月日順とし、同年月日発行の場合は編著者の姓の五十音順とする。

・書名は、原則として表紙記載に従い、叢書名などは後に()で囲んで示した。場合によっては叢書名を先に挙げた。

・児童向け作品には挿画が多く含まれることから、可能な範囲で画家名も挙げた。

・著者名は氏名のみを記し、編集者名は「編」、編著者名は「編著」、挿画者名・絵本画家名は「画」を付して記した。

・再版・改版に関しては原則として省略し、初版情報のみを挙げた。初版が管見に入らなかった場合もある。

・作品に関するコメントがある場合は*以下に記した。

□ 『古事記』を典拠とする作品

書名に「古事記」と付かない作品については、『古事記』典拠と判断した理由を*に記した。その他コメントがある場合も*に記した。

一、童話(物語)

(一) 『古事記』から部分的に採用したお伽噺、童話、物語

『兔と鰐』(日本昔噺14) 大江小波 博文館 明治28年10月10日

*「イナバノシロウサギ」説話。洪水が無い展開等から『古事記』と判断した。

『海のお宮』(世界童話集第5編) 鈴木三重吉 春陽堂 大正6年10月23日

*「海のお宮」は「古事記」といふ本の中から選んだ」と記される。

『日本武尊』(偉人の少年時代) 渡邊霞亭 碧瑠璃園 巧人社 昭和10年10月20日

*物語の展開により判断した。

『日本伝説童話 海幸山幸』木村小舟 精文堂出版部 昭和17年9月15日
*物語の展開により判断した。

(二) 『古事記』に即した通史の形式をとる歴史的物語

『日本神典 古事記噺』渋川玄耳 精美堂 明治43年10月25日

*『古事記』全編を通した児童向け口語訳の嚆矢。

『少年日本歴史読本』萩野由之編 国観画 博文館 明治44年

第1編『天の浮橋』明治44年2月1日

第2編『大国主神』明治44年3月12日

第3編『天孫降臨』明治44年5月11日

第4編『橿原の宮』明治44年7月1日

第5編『三種の神器』明治44年10月4日

第6編『新羅征伐』明治44年12月28日

*「古事記を基とし、別に日本書紀、出雲風土記、播磨風土記等の古書を参酌」したとする。

『古事記物語』鈴木三重吉 雑誌『赤い鳥』3-1-5-3 大正8年

7月〜大正9年9月

『古事記物語』鈴木三重吉 清水良雄画 赤い鳥社

上巻 大正9年11月20日

下巻 大正9年12月20日

『現代語に全訳せる古事記』福原武 洛陽堂 大正10年10月8日

『日本神話 古事記物語』(世界少年少女名著大系12) 齊藤佐次郎 金の星社 大正13年11月18日

『古事記』(小学国史物語2) 新免忠 紅玉堂書店 大正14年11月20日

『神代の日本』(課外読本 学級文庫) ヨウネン社編 ヨウネン社 大

正15年5月25日

*『古事記』によったと記される。

『古事記時代』(少年国史叢書1) 田中貢太郎 子供の日本社 大正15年7月20日

『少年古事記物語』宮崎久松 大同館書店 大正15年7月28日

『日本建国童話集』(小学生全集第6集) 菊池寛 文芸春秋社 昭和2年12月8日

* 神名表記が『古事記』で統一される。巻末に系図あり。

『古事記物語』(児童図書館叢書 第36篇) イデア書院 田中耕耘 昭和3年3月10日

『新訳 古事記読本』三浦藤作 文教書院 昭和4年6月25日

『少年少女 日本建国物語』藤田淳 文化書房 昭和5年6月25日

* 神名表記が『古事記』で統一される。

『子ども国史 神代の日本』高橋立身 光学堂昭和5年7月20日

* 「序」に『古事記』の校訂本によったとある。

『日本建国物語』鈴木三重吉 アルス 昭和5年8月14日

* 古事記からとった、とある。

『やさしい古事記』小屋民三 名取春仙画 誠文堂 昭和5年9月15日

* ○を使用した伏字部分がある。

『日本建国物語』中田千畝 丁未出版社 昭和6年3月5日

* 神名表記が『古事記』で統一。対象を尋常5、6年から中学1、2年とする。

『日本神話 古事記物語』(少年少女世界名作物語8) 金の星社編輯部

金の星社 昭和9年2月15日

『日本神典 古事記画譚』渋川玄耳 資文堂 昭和9年4月20日

『古事記物語』(少年少女世界名作物語) 三宅房子編 黒崎義介画 金の星社 昭和13年8月20日

『古事記』日本古典児童版 新屋敷幸繁 日本文学社 昭和14年12月12日

『カミサマノオハナシ』1、2 藤田美津子(三省堂か) 昭和15年1月か

* 児童による絵が多く、文はすべてカタカナ。初版は戦災により消失し、発行所、発行月日の詳細不明。

『少国民古事記 国のはじめ物語』吉田禎男 輝文館 昭和17年7月20日

『古事記 開発社少国民版』新屋敷幸繁 木俣武画 開発社 昭和17年9月18日

* 『古訓古事記』による。

『古事記といふ本』浅野晃 雑誌『少年倶楽部』29-12 昭和17年12月

『古事記物語』浅野晃 雑誌『少年倶楽部』30-1-31-2 昭和18年1月-昭和19年2月

『古事記』(青少年日本文学) 平林治徳 鈴木朱雀画 至文堂 昭和18年2月15日

『少国民の古事記』佐藤武 文松堂書店 昭和18年10月20日

* 各地神社の写真を多数掲載。

二、戯曲

『古事記』『日本神話』等が混在する戯曲集については、関連作品

名をすべて挙げ、そのうち『古事記』を典拠とした作品名をゴチツ

ク字で示した。コメントは*で記した。

『児童劇脚本』第6集 片岡魯月 明治図書 大正12年2月20日

「神話劇 大國主命と白兔」

* 大國主命が兔を助ける部分はあるが、その後のストーリーは異なる。

『家庭用児童劇』第2集 坪内逍遙 早稲田大学出版部 大正12年3月15日

「因幡うさぎ」「すくなびこな」「高まが原」「国ゆづり」

『国語読本を戯曲化する 児童劇脚本』宮川菊芳 三浦成作 厚生閣

大正14年12月15日

「白兔」「大蛇退治」「熊襲征伐」

『児童劇集 上』(日本児童文庫21) 坪内逍遙 アルス 昭和2年5月25日
「をろち退治」「因幡うさぎ」
『児童劇集 下』(日本児童文庫22) 長田秀雄 アルス 昭和3年5月5日
「伊邪那岐命」

『児童劇集』(新日本少年文学全集17) 河目悌二画 国民図書 昭和4年7月13日

「すくなびこな」坪内逍遙、「日本武尊」仲木貞一、「いなばの白兔」多田不二

『家庭用児童劇』(春陽堂少年文庫91) 坪内逍遙 春陽堂 昭和8年3月15日

「をろち退治」「因幡うさぎ」「すくなびこな」

『建国児童劇集』仙波安芸 建国祭本部編 帝国教育会出版部 昭和17年4月5日

「天の岩戸」三上秀吉、「白兔」渋谷青花、「国ゆづり」加藤光、「二つの玉」竹越和夫、「美々津の浜」秋月浩霊、「皇国の礎」中川静村

三、絵本・漫画

『古事記絵ばなし 日本の神様』渋川柳次郎 名取芳之助画 有楽社

明治44年2月11日

『オトギエバナシ 因幡の兔』石川謙次郎 富士屋書店 昭和5年5月5日

『大國主命』(講談社の絵本169) 松村武雄ほか 鴨下晁湖ほか画 大日本雄弁会講談社 昭和16年2月1日

『大國主命』大木雄二 黒崎義介画 児童の友社 昭和18年4月30日

『神武天皇』(日本お伽第53編) 青葉山人 笠井鳳齋画 島鮮堂 明治44年2月28日

四、紙芝居

『大國主命と白兔』(幼稚園紙芝居 第5輯) 高橋五山 高橋五山画

全甲社紙芝居刊行会 昭和11年5月20日

*印刷紙芝居16枚。

『カミサマトシロウサギ』川崎大治 西正世志画 日本教育画劇 昭和18年3月15日

*印刷紙芝居11枚。日本教育紙芝居協会製作。

□『古事記』以外の『日本書紀』等を典拠とする関連作品

一、童話(物語)

(一)『日本書紀』『風土記』等から部分的に採用したお伽噺、童話、物語

『玉乃井』(日本昔噺2) 大江小波 博文館 明治27年8月5日

『八頭の大蛇』(日本昔噺13) 大江小波 尾形月耕画 博文館 明治28年9月10日

『八咫鳥』(日本お伽噺1) 大江小波編著 久保田米僊ほか画 博文館

明治29年10月23日

『草薙剣』(日本お伽噺17) 大江小波編著 小林永興ほか画 博文館

明治31年6月23日

『仁徳天皇』(少年史談第1編) 木崎愛吉 吉岡書店 明治33年2月20日

*仁徳天皇千五百年大祭年。

『金港堂豪傑ばなし 日本武尊』折山子 金港堂書籍 明治35年8月22日

『日本武尊』(日本お伽噺第44編) 青葉山人編 笠井鳳齋画 島鮮堂

明治43年3月28日

『日本武尊』(歴史お伽第6編) 木村小舟編著 巖谷小波関 彰文館本店 明治44年1月5日

『素盞鳴命』(日本お伽文庫第3編) 巖谷小波編 田代古峯画 博文館

『神功皇后』(日本お伽文庫第14編) 巖谷小波編 八幡白帆画 博文館

大正2年11月23日

『神功皇后』(日本お伽文庫第14編) 巖谷小波編 八幡白帆画 博文館

大正4年4月18日

『歴史物語 釣鉤』小田未央 雑誌『少年倶楽部』5-9、10 大正7年7月1日、8月1日

『神様お伽噺』藤川淡水 新光社 大正9年10月20日

*『記・紀、風土記』による。編年体によらない。

『世界名作 教育童話一百選』遠藤早泉編 開発社 大正10年12月6日

『天の窟戸』八岐の大蛇

『子供に読ませる偉人の話』第2編 吉田助治 金星堂児童部 大正13年10月20日

『神功皇后』

『日本武尊』(教訓童話 偉人と英雄6) 童話研究会 積文館 大正15年4月10日

『海幸山幸』(模範童話文庫2) 巖谷小波編 文武堂 大正15年8月5日

『海幸山幸』「唾の王子」「たればなの実」ほか。

『三百六十五日 日本国史絵物語』木村小舟 中井親邦画 皇国日本社 昭和17年6月20日

*編年体ではなく、その日付に起こった重要な出来事を採録。例えば

『古事記』は1月28日、「日本武尊」は7月16日の項に記載。

『日本武尊』(開発社少国民版) 山岸外史 原田直康画 開発社 昭和18年3月25日

『肇国物語 神武天皇の御東征』久留島武彦 鈴木朱雀画 日向書房

昭和18年5月10日

『日本武尊』(青少年日本文学) 鈴木啓介 至文堂 昭和19年1月10日

(二)『古事記』あるいは『日本書紀』に即した通史の形式をとる歴史的

物語

『神代の話』(少年書類第2編 歴史修身談第1巻) 遊佐誠甫 柿山陽

谷画 開発社 明治33年12月30日

*改正小学校令に不満を持つ著者が、児童に正しい歴史を授ける目的で著した。

『日本神話 愛と剣』木村小舟 博文館 明治44年12月23日

*神代から中古にかけての物語を選択、「雅文に綴り改めて、青年女子の読物」とする。

『伝説 面白い神代のお話』中村徳五郎 山田忠一画 松雲堂 大正8年1月20日

『伝説 面白い日本歴史のお話』第2巻 上代の巻 中村徳五郎 山田忠一画 松雲堂 大正8年1月20日

『童話の日本史』吉田助治 文陽堂 大正9年

1 神代の巻「美しい国」大正9年9月5日

2 上古の巻「宝の国」大正9年9月末か

『日本童話宝玉集』上巻 楠山正雄 富山房 大正10年12月18日

*『日本書紀』『古事記』『古語拾遺』伝説による。

『童話の日本史』(普及版) 吉田助治 文陽堂 大正12年

1 神代の巻(神代―垂仁) 大正12年1月20日

2 上古の巻(景行―允恭) 大正12年1月20日

『少年歴史物語』補助教育研究会編 而立社 大正12年、13年

第1篇『天の岩戸』大正12年7月20日

第2篇『三種の神器』大正12年か

第3篇『海山の争ひ』大正12年8月23日

第4篇『金色の鳥』大正13年3月23日

第5篇『草薙の剣』大正13年5月10日

第6篇『三韓征伐』大正13年6月10日

*日本の物語と、同時代の海外の物語を同時収録。第2篇は奥付がなく発行年月日不明。

『日本国民史1 建国より平安時代へ』小林鶯里 文芸社 大正13年6月15日
『日本の神話』(児童図書館叢書) 吉田助治 武井武雄画 イデア書院
大正15年4月25日

『国史美談 大蛇退治』可笑庵秋月 松雲堂 昭和3年5月13日
「おろち退治」「神武天皇」「日本武尊」ほか。

『美しくやさしい国史物語―神代より北條氏滅亡まで―』畑米吉 弘文館 昭和4年6月30日

『神代の歴史』(小学文庫三年用) 栗田茂治 小原国芳監修 玉川学園出版部 昭和5年9月29日

『日本精神作興歴史読本 神武建国記』実業之日本社編 実業之日本社 昭和8年11月10日

『神代の物語』(少年大日本史第1巻) 松村武雄 河野通明画 建設社 昭和9年10月20日

『日本武尊』(少年大日本史第3巻) 下村三四吉 山本舜山画 建設社 昭和10年1月20日

『神功皇后』(少年大日本史第4巻) 井乃香樹 白田耕勢画 建設社 昭和10年2月20日

『少年国史文庫 神代と上古』西亀正夫 厚生閣 昭和10年9月11日
『少年国史物語』第1巻(豪華版)―神代、大和・奈良・平安時代―

前田晁 羽石弘志画 早稲田大学出版部 昭和11年9月18日
『日本建国神話』(日本歴史物語全集1) 菊池寛 新日本社 昭和12年1月20日

『日本神話』大木雄二 黒崎義介画 金の星社 昭和13年10月20日
『神の国日本 肇国物語』香川頼彦 文友堂 昭和14年12月23日

*皇紀二千六百年記念出版。「出来るだけ原文に忠実な口語訳」とするが解釈には「国体の本義」などを用いる。

『童話 日本国史』第1巻 水谷まさる 大石哲路画 金の星社 昭和15年
「神代 大和時代 奈良時代 平安時代」

『日本国史美談』第1巻 ―神代より元寇まで― 池田宣政 偕成社 昭和15年2月20日

『建国物語 神の国日本』荻谷芦村 文昭社 昭和15年2月24日
*神名はカタカナ表記、神社古蹟の写真多数。

『大國史美談』巻1 北垣恭次郎 実業之日本社 昭和16年9月5日
『天の浮橋』(日本神話英雄譚宝玉集第一冊) 楠山正雄 富山房 昭和17年6月28日

『日本の神さま』各務虎雄 弘学社 昭和18年7月30日
*殆どひらがなで低学年向け。

『童話 日本国史』第1巻 水谷まさる 大石哲路画 金の星社 昭和18年11月15日

『少国民の神社読本』竹内武雄 電通出版社 昭和19年5月25日

二、戯曲
『古事記』『日本神話』等が混在する戯曲集については、関連作品名をすべて挙げ、そのうち『古事記』以外を典拠とした作品名をゴチック字で示した。コメントは*で記した。

『児童劇脚本』第1集 片岡魯月 明治図書 大正11年3月20日
「玉の井」

『家庭用児童劇』第1集 坪内逍遙 早稲田大学出版部 大正11年11月4日
「をろち退治」「龍宮」

『家庭用児童劇』第2集 坪内逍遙 早稲田大学出版部 大正12年3月15日
「因幡うさぎ」「すくなびこな」「高まが原」「国ゆつり」

『八岐の大蛇』(お伽史歌劇第5編) 町田桜園 盛林堂 大正12年7月15日
*楽譜あり。

『国語読本を戯曲化する 児童劇脚本』宮川菊芳 三浦成作 厚生閣 大正14年12月15日

「白兔」「大蛇退治」「熊襲征伐」

『児童劇集 上』(日本児童文庫21) 坪内逍遙 アルス 昭和2年5月25日
「をろち退治」「因幡うさぎ」

『大國主命』(子供の喜ぶ童話劇資料叢書「一九二七年版」3) 中西芳朗 コドモ芸術学園講演部 昭和2年6月1日

「神話児童劇 大國主命」

*楽譜あり。

『学校史劇』第1編(神代の巻1) 町田桜園 盛林堂 昭和2年9月28日

『学校史劇』第2編(神代の巻2) 町田桜園 盛林堂 昭和2年9月28日

『学校史劇』第3編(神代の巻完) 町田桜園 盛林堂 昭和2年9月28日

『学校史劇』第4編(上古の巻) 町田桜園 盛林堂 昭和3年6月23日

『少女劇 天孫降臨』田中蓮代 出版社不明 昭和4年4月

『児童劇集』(新日本少年文学全集17) 河目悌二画 国民図書 昭和4年7月13日

「すくなびこな」坪内逍遙、「日本武尊」仲木貞一、「いなばの白兔」

多田不二

『小学国史を戯曲化する 児童劇脚本』長尾豊 厚生閣 昭和5年10月5日

「御剣」:『尋常小学国史』上巻第1の「天照大神」、第2「神武天皇」より

「少女の姿」:同第3の「日本武尊」より

「走水」:『国語』巻9の第3「弟橘姫」より

『一日の素盞鳴尊』(教室文庫5) 金子富太郎編 教育館 昭和6年1月10日

*武者小路実篤(大正11年)の作品。

『すくなびこな』(教室文庫6) 金子富太郎編 教育館 昭和6年1月10日

*坪内逍遙の作品。

『家庭用児童劇』(春陽堂少年文庫91) 坪内逍遙 春陽堂 昭和8年3月15日

「をろち退治」「因幡うさぎ」「すくなびこな」

『日本国史児童劇集 上』野村政夫 一進堂書店 昭和15年10月25日

「おろち退治」

『手軽に出来る青少年劇脚本集』第1輯 台湾総督府情報部編 台湾総督府情報部 昭和16年4月13日
「大蛇退治」

『建国児童劇集』仙波安芸 建国祭本部編 帝国教育会出版部 昭和17年4月5日

「天の岩戸」三上秀吉、「白兔」洪沢青花、「国ゆづり」加藤光、「二つの玉」竹越和夫、「美々津の浜」秋月浩霊、「皇国の礎」中川静村

三、絵本・漫画

『素盞鳴尊』(お伽漫画1) 保積稲夫 丸善 昭和2年9月15日

『少年国史絵画館』(『少年俱樂部』10月号附録) 中村孝也指導 大久保

弘一解説 斎藤五百枝ほか画 大日本雄弁会講談社 昭和11年10月1日

『国史絵話』(講談社の絵本76) 著者不明 米内穂豊ほか画 大日本雄

弁会講談社 昭和13年8月1日

『日本武尊』(講談社の絵本87) 西条八十 田中良ほか画 大日本雄弁

会講談社 昭和13年11月1日

『日本よい国 建国絵話』(講談社の絵本97) 尾竹国観画 松村武雄解

大日本雄弁会講談社 昭和14年2月1日

『皇紀二千六百年奉祝記念 国史絵巻』(講談社の絵本135) 三島章道

大日本雄弁会講談社 昭和15年2月1日

『日本よい国 建国絵本』豊国年亮画 広文社 昭和15年4月25日

四、紙芝居

『建国物語 神武天皇さま』高橋五山 牧ヒトシ画 全甲社紙芝居刊行会 昭和15年11月5日

*印刷紙芝居17枚。

注

(1) 恩田逸夫「『古事記物語』の成立」(日本児童文学会編『赤い鳥研究』小峰書店 昭和40年4月)、続橋達雄「鈴木三重吉『古事記物語』考」(『野洲国文学』第54号 平成6年10月)など。

(2) 研究史の概略は拙稿「鈴木三重吉が見た『古事記』——享受史の観点から——」(『日本文学』第56巻第2号 平成19年2月刊行予定)を参照されたい。
平成十八年九月二十九日